

大 分 県 の 環 境 緑 化 (第1報)

大分市における街路樹の現況と問題点

大分県緑化推進課 矢 野 丈 夫
 “ 黒 木 隆 典

1. はじめに

街路樹は、都市構造物の点景としての美的効果のほか、緑陰を供給するなど、情緒的にも生理的にもその効果はいちぢるしいものがある。しかし、最近では急速な都市化の進展にともない、都市の緑はしだいに失なわれつつあり、これが積極的な創造と保全対策が強く望まれている。

今回、大分県街路樹管理基準(49年10月)の策定にあたり、大分市内の街路樹の現況をとりまとめたのでその概要を報告する。

なお、市内の街路樹一斉調査にあたっては当県緑化推進委員会のみどりの相談員である、後藤環、城満憲両氏の積極的な御協力をいただいた。特記して謝意を表したい。

表--1 大分市内の街路樹現況表(昭和49年3月)

調査事項 樹種	総 本 数	樹高別植栽状況(本)				道路別植栽状況 (本)			障害物(架線等)の有無及び維持管理状況(本)							
		2 m 未満	2~4 m	4~6 m	6 m 以上	国 道	県 道	市 道	障害物		病虫害		剪定整枝		生 育	
									有	無	有	無 (不明)	良	不良	良	不良
ヤ ナ ギ	845		238	341	266	193	71	581	834	11	40	805	643	202	774	71
イ チ ョ ウ	791		131	489	171	254	192	345	618	173	379	412	766	25	637	154
シ ン ジ ュ	648			534	114	75	171	402	367	281	553	95	618	30	638	10
スズカケノキ	250			210	40	55	92	103	222	28		250	250		150	100
ア オ ギ リ	119		35	35	49	35	84		70	49		119	84	35	84	35
フェニックス	83	6	62		15		50	33		83		83	83		71	12
ク ロ マ ツ	11			3	8	11				11		11	11		11	
アメリカフウ	627		74	553				627		627	391	236	553	74	162	465
ケ ヤ キ	96			96				96	96			96		96	96	
ナンキンハゼ	677		304	373			677			677	98	579	504	173	406	271
クスノキ	235		149	86			235			235		235	235			235
エンジュ	57			57				57	57			57	57		57	
サ ク ラ	34			34				34	34			34	34		34	
トウウエデ	511		89	422		54	116	341	419	92	54	457	446	65	466	65
イタリヤポプラ	147		147			147			147			147		147	147	
アメリカデイゴ	19	11	8				8	11		19		19	19		19	
トウシュウ	116	109	7			50	59	7	69	47	25	91	91	25	91	25
キョウチクトウ	333	333					333			333		333	333			333
ト ベ ラ	633	633				633				633		633	633			633
ド ラ セ ナ	10	10						10		10		10	10			10
ネズミモチ	539	539				539				539		539	539			539
シャリンバイ	587	587					587			587		587	587			587
ア ベ リ ヤ	1,105	1,105				425	680			1,105		1,105	840	265	840	265
タマイブキ	42	42					42			42		42	42			42
合 計	8,515	3,375	1,244	3,269	663	2,471	3,397	2,647	2,933	5,582	1,540	6,975	7,378	1,137	5,312	3,203

2. 市内街路樹の現況と問題点（表一）

① 植栽樹種

49年3月現在で24種、8,515木の街路樹が植栽されており、主な樹種を本数の順に列記すると、ヤナギ、イチョウ、シンジュ、スズカケノキなどであり、全体の約30%に達している。又、高木のうち96%が落葉広葉樹で、常緑樹はクスノキ他2種でわずか4%にすぎない。このように樹種は主要都市特に東京都に類似した傾向が見られ、今後は暖帯の特質を生かした樹種の選定を考慮すべきであろう。

② 架線等の障害物

高木のうち上空に障害物がないもの37%、障害物はあるが管理により影響を受けていないもの55%、障害があるもの8%である。

樹高配分をみると、2m未満が40%、2~4m、が15%、4~6m、が7%、6m、以上が8%であり、最近では2~3m、の半成木や低木の植栽がふえてきたのが目立っている。

又、樹高7m以上の街路樹がほとんどないのは残念であり、今後は自然形仕立てにより、可能なかきり伸長させるべきであろう。このためには、樹種の選定はもちろん、架線の地下埋設等を検討する必要がある。

③ 保育管理

病害虫の被害は全体の約12%に見られ、主なものはゴマダラカミキリ、ミノムシ、カイガラムシ類、すす病等であり、適切な防除対策が必要である。

剪定は、成木に対して夏と秋の2回行なっているが、ヤナギ、シンジュ、イチョウ等特殊な樹種に対する剪定方法は検討の余地があり、樹種毎に決める必要がある。

④ 生育状況

ヤナギ、スズカケノキ等昭和25年頃植栽の老齢樹には樹勢のおとろえが見られ、梢端枯れ又は穿孔虫が寄生したものが多い。又、衰弱の度合は日照の少ない北側の方が高い。

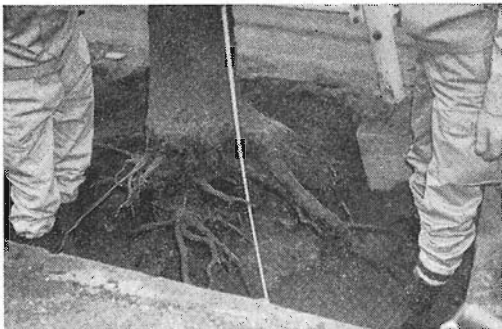
その他、衰弱や生育不良の原因としては、病害虫の他に、架線、道路施設物、反射熱、陽光の遮へい、排気ガス、工場排煙、舗装による雨水浸透不良等が考えられるが、街路樹は一般の樹木植栽に比べて障害が多いので、維持管理については特別の配慮が必要である。

なお、49年夏に枯死したスズカケノキ、ヤナギ、シンジュ各1本を掘取り調査した結果は表一2のとおりで、枯損原因の多くは地下部にあるようである。

表一2 枯損木の掘取調査

S. 49. 11. 14

樹種	樹高	目通周	枝張	枝下高	樹齡	枯損期	病害虫	土壌及び根系の状況	枯損原因
スズカケノキ	450	55	220 × 180	280	28	49年8月	カミキリ脱出孔 42 ネキリムシ 17	地下20cmアスファルトの層あり、根系に障害 土壌硬度大	アスファルト層による根の障害と害虫寄生
ヤナギ	520	63	200 × 240	180	28	〃	カミキリ脱出孔 15 ネキリムシ 4	コンクリート塊による根系障害 コンクリート残さい流入 線虫寄生、強アルカリ性	コンクリート流入によるpH異常
シンジュ	600	75	300 × 300	270	不明	〃	なし	工事による根の切断	夏期の強剪定と根の切断



ヤナギ掘取調査

3. まとめ

街路樹植栽の成否を決める因子は、樹種の選定、管理方法はもちろん、目に見えない地下部の条件にあると云って過言ではない。

特に街路の土壌条件の悪化は生態系の不成立によるものであり、植穴の拡大、客土、土壌改良剤、施肥などの調整により人為的に改良を図ることが必要である。